

1 2023年度CSOラーニング制度を開始しました！

2023年度のCSOラーニング制度が開始しました。今年は24期目の実施となります。新たに福岡地区を加えた全国5地区（関東・関西・愛知・宮城・福岡）で、59名の大学生・大学院生が、36のCSOで1月末までの8か月間、インターン活動を行います。

キックオフ・ミーティングの開催

6月7日～9日の3日間で、全国5地区のキックオフ・ミーティングを開催しました。関東・関西では4年振りに対面形式でのミーティング開催をすることができ、初めて顔を合わせる同期の仲間と、楽しく目標を語り合う姿が印象的でした。残る3地区は合同でのオンラインミーティングとなりましたが、それぞれが制度参加にあたっての様々な思いや目標をしっかりと語ってくれ、非常



キックオフ（オンライン）の様子

に頼もしく感じました。ミーティングでは各自の自己紹介のほか、活動期間中の定例業務やインターン生としての心構えを学びました。参加者の皆さんが充実した8か月間を過ごせるよう、財団一同、全力でサポートしていきます！

に頼もしく感じました。ミーティングでは各自の自己紹介のほか、活動期間中の定例業務やインターン生としての心構えを学びました。参加者の皆さんが充実した8か月間を過ごせるよう、財団一同、全力でサポートしていきます！



関西地区キックオフの様子



関東地区キックオフの様子

参加者の声

Question

- ①. 自己紹介をお願いします。
- ②. いま一番関心のある環境問題は何ですか？
- ③. インターン期間中にどんな活動をしたいですか？

01 派遣先団体：WWFジャパン キム ゴヌ さん



A① 武蔵野美術大学クリエイティブイノベーション学科で、様々な社会課題を解決するために、人々の行動や考え方をデザインする方法を学んでいます。授業の中で人間が最も「美」を感じる時は、美しい自然を見る時であると聞きました。人間の幸せのためにも環境問題は大きな社会課題であると感じ、直接課題解決したいと思い、CSOラーニング制度に参加しました。

A② プラスチック問題に関心があります。大量生産、大量消費、大量廃棄をもたらすプラスチック問題は深刻であり、海洋環境にも致命的な被害を与えています。カリフォルニア州立大学の研究によると、シロナガスクジラは一日43キロのプラスチックを食べています。問題解決のために個人の意識改善と、企業の協力が不可欠だと思います。

02 派遣先団体：気候ネットワーク 大同 唯和 さん



A① 現在大学2年生で、森林科学を専攻しています。派遣先では以前からボランティアとして活動していたのですが、もっと現地に出てイベントに関わり、国際的な調査について知りたいと思い応募しました。環境問題に関心がある同年代の方との輪を広げられることも、応募の決め手となりました。

A② 気候変動とエネルギー問題に興味があります。どちらの問題も相互に関わり合っていて難しい問題だと思います。しかし、技術や政治、教育など様々な方面からの解決に向けたアプローチがあり、地球環境改善や地域創生など多くのリターンが得られる点が興味深いと思っています。

A③ イベントを運営したり、これまでなんとなく知ったつもりになっていた問題の現状や、制度・技術についての理解を深めたいと思っています。今までやったことのない調査にも挑戦したいと思っています！

2 「脱炭素チャレンジカップ2023」に協賛しました！

SOMPO環境財団では、脱炭素社会の実現に向け、学校・団体・企業・自治体など多様な主体の取り組みを表彰する、脱炭素チャレンジカップに協賛しています。この度、杉並区立西田小学校の取り組みに対して「最優秀わくわく未来賞」を授与しました。西田小学校では、「ユネスコスクールNISHITAの挑戦～未来の学校～」として、学校全体で「2100年の天気予報」で地球環境問題について学び、子どもたちが主体となり、「子どもと大人が話し合う時間」の実施など脱炭素社会の実現に向け地域を巻き込んだ仕組みづくりを行っています。



子どもと大人が話し合う時間



落ち葉を集めた堆肥づくり

SOMPO環境財団では、国内のほかにインドネシアでも「NGO Learning Internship Program」という名称で同様のインターンシップ制度を運営しています。日本とは開始時期が異なり、今年の2月から25名の学生が、ジャカルタ・ボゴール所在の9つの環境NGOで、8か月間のインターン活動に参加しています。



5月定例会の様子

今回は5月に開催された定例会の様子を、参加学生たちの制度への思いも交えてご紹介します。

5月の定例会は、今年度初めての対面開催となり、派遣先NGOの1つであるBOSFで開催されました。同団体はボルネオ島のオランウータン保護活動を行う団体です。会の前半ではBOSF職員の方から講話をいただき、後半は学生代表の4名がこれまでの活動についてのプレゼンを実施しました。現地での運営を委託している日本環境教育フォーラム（JEEF）の担当者からは、「キックオフ以来2回目の顔合わせにも関わらず、旧知の友人のように親しく交流していたのが印象的。みな楽しみながらも熱心に議論に参加しており、8月のワークキャンプに向けて結束が強まった」とのコメントをいただきました。

どのインターン生もこの機会を最大限に活かし、自身の成長や目標に向かって歩みを進めていることが伝わってきました。9月の修了に向けて、更なる活躍を期待しています！

参加学生の声

「4か月間の活動で、NGOセクターの恩恵や影響力がいかに大きいものかを実感しています。残りの期間ではNGOの一員として今後の戦略を提案できるような専門性を身につけるとともに、もっと若い世代を巻き込んでいくことにチャレンジします。」



BIOCert派遣・キスワントロさん

「専門的なバックグラウンドを持たない私にも様々な活躍の場を与えていただき、成長を実感しています。NGOが社会にとって非常に重要な役割を果たしていることが、団体のストーリーを通じて深く理解できました。」



HuMa派遣・アルフィトラさん

Question

- ①. ラーニング生はどのような業務をしていますか？または、どのような業務をする予定ですか？
- ②. ラーニング生にはどのような期待をしていますか？
- ③. CSOラーニング制度についてお考えをお聞かせください。

01

特定非営利活動法人 環境市民 風岡 宗人 様



- A1** 持続可能な生産・消費の観点から企業の公開情報を調査・分析する作業、団体主催イベント運営、広報などのお手伝いのほか、独自プロジェクトを企画、実行にもチャレンジしていただいています。
- A2** 単に組織のマンパワーとしてだけでなく、自分発の行動を起こすことです。そのために所属しているCSOの資源を最大限活用する「貪欲さ」がほしいです。同時に、学生としての新鮮な眼差しで団体を捉え、組織の課題をひとつでも改善してほしいです。学生の今だからこそできることがあるはず。組織に集う多様な世代、立場、関心の持ち主と交流することで、自分という存在の価値に気づいてほしいです。
- A3** NGOの現場で、8か月間にわたり奨学金を得ながら本気で活動できる場＝成長の場として、また様々な社会変化を乗り越え継続されてきた稀有な制度であると思います。多数の修了生とのつながりが団体の財産にもなっています。一方で、初年度修了した学生のアドバンスプログラムや全国の学生同士の横のつながりを生かした日本社会への提言など、あるといいのになとも思います。今後も学生、CSOとともに発展していければ幸いです。

02

認定NPO法人 冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク 斉藤 信三 様



- A1** 公園や空き地、水路や田んぼで、子どもが自由にのびのびと遊び育てる場づくりを行っています。道具の準備をしたり、自ら遊ぶ姿を見せたりして、子どもが本来持っている「遊びたい気持ち」を呼び起こしています。
- A2** 私たちの活動に参加する際には、皆さんそれぞれの個性を発揮していただきたいと考えています。活動に参加する人が多様であるほど、その遊び場には多様な面白さが受け入れられる許容度が育ち、様々な子どもにとっての居場所になります。また、活動の中での様々な気づきや疑問を共有していただくことが、当団体の得難い財産となります。些細なことでも話していただきたいです。
- A3** ラーニング生の皆さんと活動し、気づきや学びを共有させていただくことが、受け入れ側の大きな財産になっています。これまで参加されたラーニング生の皆さんからは、普段なかなか接点の無い多様な世代の皆さんとのやり取りが、得難い経験となったと聞いています。貴重な機会を作ってくださいまして感謝しています。